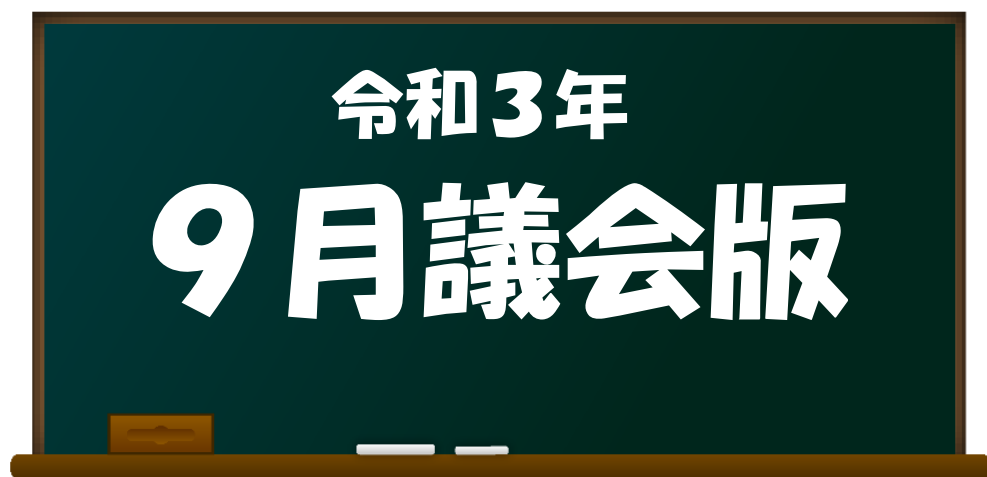


内藤幸男と座間の未来を考える会

市政ドリル 第35号



責任感

郷土愛

情熱



座間市の市政と一緒に考えましょう！

問1

今定例会では市内中小企業の支援策として「新型コロナウイルス感染症対応設備導入補助事業」に係る補正予算が組まれました。1事業者の上限補助額は？

- ①100万円 ②200万円 ③300万円 ④400万円

問2

DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進に向けて、令和3年8月1日付で組織の部分的な改変が行われ、新たに創設された係とは？

- ①デジタル推進係 ②DX推進係 ③デジタル未来推進係

職員定数の改正条例 「計画の無さ」を問題視

今定例会では、新聞や地域紙など様々なメディアが報じた「座間市職員定数条例の一部を改正する条例」が注目をされました。この条例改正は、市長部局の正規職員の定数を現行の「537」から「577」に改めるもので、「休業者等の欠員への補充」や「災害対応の必要性」、「新型コロナウイルス感染症の影響」などを理由とし、市長は記者会見にて、「座間市は人口1万人あたりの職員数が少ない。療養者や育休者もあり人手が不足している」と述べられていました。

確かに、人口1万人あたりの職員数が少ないことは事実ではありますが、これまでには、様々な工夫を重ね、職員の努力もあり、最小のコストで最大の効果を発揮しているという他市に誇るケースとしても知られていました。

もちろん計画や目的が明らかであり、必要性が示されれば我々も同調をするところですが、今回は、審査の中で「計画の無さ」が明らかになりました。一般的なプロセスであれば、職員の定数については、定員管理計画と一緒に示し、市民も納得する理由を明らかにし、目的や必要性を政策決定した中で、条例改正が行われるものです。しかし今回は、定員管理計画の策定は行われず、条例のみの改正案が示されました。(行政改革推進委員会からの指示で「次期定員管理計画(案)」を策定することが指示されていたにも関わらず)。

このまま、見過ごしてしまえば、市長の決裁によってすべてを変えることができるという「専制主義」ともいえる体制がつくられてしまうことにもなりかねません。

審査の中では他にも、AIやデジタルの導入による行政のスリム化に逆行した考え方や、今後策定される第5次総合計画との曖昧な相関性、職員全体の時間外勤務が減少している矛盾、瞬発的な対応として会計年度任用職員の方が適切であることなどあまりにも理解に苦しむ内容となりました。このようなことから第5次総合計画、それに伴う機構改革、さらには定員管理計画を明らかにしたうえで、議会としても建設的な意見を申し上げる機会をご用意頂くことを訴え反対の姿勢を取らせていただきました。この議案については、我々自民党・いさまの議員を始めとする15名が反対をし、否決となりました。なお、40名の定数増部分を除いた修正案も他会派から示されましたが、そちらについても定数増と除外規定は一緒に検討していくべきものとして反対を致しました。

確かな一歩の積み重ねで座間市の未来へつなぐ。

答え 問1 ②、問2 ①



自民党

内藤幸男と座間の未来を考える会

☎090-6107-3467

✉zama@naito-yukio.com

〒252-0028 座間市入谷東3-8-23



内藤幸男

検索

討議資料

令和3年第3回定例会 一般質問と答弁の主な内容

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進について

DX推進に対して、本市の哲学や明確なミッション、ビジョン。具体的なロードマップ策定への市長の見解を伺う

今後DXを推進する上で大変重要なことと認識をしている。ロードマップ等を示すと共に、リーダーシップを持って推進していく。

市長の答弁

デジタル技術を活用し、より良い市民生活が送れるような社会を実現して行きたい。

DXを回す組織・人材について

令和3年8月1日付けで組織の部分的な改変がされ、デジタル推進係が設置されました。デジタル推進係が所管する業務の詳細について伺う。

デジタル庁創設前に、デジタル社会の推進にかかる担当部署として体制整備をさせて頂いた。当面は自治体DXに関する情報収集をしながら、本市DXの基本方針を検討していく。

市長の答弁

DXを回す組織・人材について

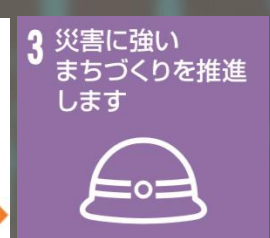
- ◆組織を機能させるための制度や人材、予算等についての考えは？
- ◆外部の人材に求める能力や条件、採用人数の予定は？
- ◆デジタル人材の育成についての考えは？
- ◆行政と民間のギャップを埋めるための対策等は？

この組織を機能させるための人材や予算、外部人材の採用に関する事等について、まずは本市の目指すビジョンやDXを推進するための戦略を策定し、それらに向けて必要な人材や予算、問題点等を検討していく。

市長の答弁

その後に外部人材を採用するのか、採用した場合の民間ギャップがあるのか等を判断し、本市の課題解決に向けて取り組む。

災害対応と 市長のリーダーシップについて



総合防災訓練を中止にした理由は？

本市の救命救急を担う消防職員の感染リスクを少しでも避け、新型コロナウイルス感染症対応を含め、本来の任務に専念する必要がある。また、訓練に参加して下さる多くの市民や団体においても感染リスクが避けられないことから中止とした。

再質問

目的をしっかりとした上で、その中でやるやれることを考えることが大事。例えば教育型の訓練をオンラインでするとか、防災ハザードマップも更新されたばかりであり、こういったものを使ってオンラインで出来る講習をしたりとか、工夫がとれたと思うが見解は。

ご提言等も参考に、現状に沿ってできる訓練を検討して行きたい。

災害時に現状の財源でできること、できないことは？

有事への対策については、国や県からの指示を待つ時間はなく、市独自での判断が求められる。市長は現状の財源で、対策についてどのようなことができ、どのようなことができないと想定しているのか。

現在具体的な想定はないが、その時点で投入できる財源の状況において見極めをしていきたい。

要望

財源については、ここ10年、20年ぐらいの推移は分かっているはず。その中でどういうことができるかは市長もあらかじめ想定できると思うので、その辺はしっかりと考えていただきたい。

新型コロナウイルス感染症対策 進まない市の支援、せめて「自助」の備えを周知して

新型コロナウイルス感染症で自宅療養となっている陽性者に対して、保健所から食料や日用品が届けられているが、量が少ないなどの問題から、陽性者がやむを得ず食料品や生活必需品等の買い出しに行くケースも出ていると聞く。このことは感染を拡大させる可能性があり、市民を守る立場として手を打たなければならないと考える。市で生活必需品等の支援ができないのであれば、せめて非常食等をご自身に用意してもらうための呼びかけが必要。食料品や酸素ボンベ、解熱剤など、感染する前に準備しておくものを医師会からアドバイスを受け、ホームページや広報で周知すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

ご提言いただいた自宅療養に備えた生活必需品等の周知は、大変有益であり、早速、ご自身で準備をしていただくことについて周知するよう対応させていただく。

未来デザイン会議で参加者がコロナ陽性 市長の認識と責任は？

主催者としての会場の感染症対策に関して、本市方針に沿って、十分な感染予防策や感染リスクへの対応ができていたと捉えている。

再質問

市の方針に沿った対応をしているので問題はないと言われたが、私は当日参加していて疑問に思った部分がある。移動しながら対話をする形式の会議にもかかわらず、パーテーションは机の中央に1箇所だけ、移動の際は消毒もしない。こういった感染症対策では正直過失があるのではないかと思います。また、市長はイベント時に陽性者が出たのであれば、職員を守るための対策を指示する必要があったと思うが、見解を伺う。

職員には参加者同様に感染症対策を徹底するように指示をした。

再々質問

職員には参加者同様に感染症対策をするよう伝えたと言うことだが、それでは職員の命は守れない。イベントで陽性者が出たのであれば、職員にPCR検査を受けてもらうとか、検査キッドを配布して一回検査をしてもらうとか、それで何も無かったら来てくださいと指示を出す。そうじゃないと他の職員にも、もしかしたら感染させてしまうかもしれない。そういうリスク管理が市長の責任では？

市で行う全ての行事に対して、対応できる感染症対策をして行く事が、職員の安全を確保する手立てだと思っている。その都度職員と話をしながら決定をさせていただいている。

ワクチンの分配方法について、公平性や透明性を担保できているのか？

新型コロナウイルスワクチンは、各医療機関が個別接種に必要な量と集団接種に必要な量を合わせて県に報告をしている。県は各市町村の供給要望を取りまとめ、国に対して供給要望している。この供給を希望する量が満たされた場合には、個別接種と集団接種に必要な供給が充足されるが、希望する量が供給されない場合には、個別接種に必要なワクチン量を優先して供給することになる。

再質問

分配方法については、個別接種の中でも、地域やかかりつけ医により差が出ている。現状のやり方では公平性が担保できているのか疑問。市からの指導等、整理する必要があると思うが見解を伺う。

それぞれの医療機関の判断で出来る限りの対応をしていただいているため、一律にできない状況である。

ワクチン接種計画は策定されたのか？

事業実施に当たっては、基本的な方針作成が必要なため、当初から計画はあり、その後の状況を踏まえて随時修正している。しかしながら、市民に分かりやすく発信ができていなかったことを受け止め、情報の発信について再度検討した。計画を修正したり、新たな内容が生じた時点で、市ホームページや広報ざま、line、いさまメールで配信を行うことで、より丁寧な情報発信に努めているところ。

再質問

答弁からすると、ワクチン接種計画は既に策定済みということだが、私は見たことがない。また、情報を個別に出しているというのもよくわからないがどういうことなのか。

冊子のような形態の計画と言うことではなく、その都度アップデートを行っていくという意味合いで、それが計画という風に捉えている。

要望

その都度アップデートしてということで、計画とは言えないかなり曖昧なものだと思う。だから、決議を出させて頂いている。プロセス無しに事業が進んで行くと、正直、それが良いのか悪いのか分からない。それで市民からは不安や不満の声も届く。そういったことを解消するために、計画をしっかり示さなければいけないと思う。今後は計画を出して進めていただきたい。

■令和2年度歳入・歳出決算額

区分		令和2年度	令和元年度	増減額
一般会計	歳入	591億6702万円	426億7299万円	164億9403万円
	歳出	572億4814万円	408億3343万円	164億4147万円
	翌年度繰越財源	1億3003万円	1492万円	1億1511万円
	実質収支額	17億8885万円	18億2464万円	▲3579万円
	実質単年度収支額	6億748万円	2億993万円	3億9755万円
国民健康保険事業特別会計	歳入	120億6639万円	127億8244万円	▲7億1605万円
	歳出	119億3650万円	127億3446万円	▲7億9796万円
	実質収支額	1億2988万円	4798万円	8190万円
介護保険事業特別会計	歳入	94億4878万円	90億5515万円	3億9363万円
	歳出	90億6524万円	86億5172万円	4億1352万円
	実質収支額	3億8354万円	4億343万円	▲1989万円
後期高齢者医療保険事業特別会計	歳入	17億553万円	15億7439万円	1億8114万円
	歳出	16億2263万円	15億444万円	1億1819万円
	実質収支額	8290万円	6995万円	1295万円

一般会計の歳入歳出決算は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、ともに過去最大規模となりました。また、実質単年度収支額は、対前年度比189%増の6億748万円の黒字となり、コロナ禍による厳しい経済状況の中でも財政調整基金残高は過去最高額となる22億2,058万円を確保することが出来ました。このような要因としては、遠藤前市長が常に掲げてこられた総計予算主義の原則にのっとり、当初予算編成を重視し、歳入に見合った形での歳出予算を組み込むことで、徹底した執行管理、さらには不用額をしっかりと残し、余剰財源として財政調整基金に積み立て活用するといったサイクルを職員全体が共有できていた事による成果であったと感じます。

■今定例会で上程された主な補正予算の内容

- 多胎妊婦の増加に伴い、妊婦健康診査費用の一部を助成するための予算、34万7000円が計上されました。
- 市民等からの要望や施設点検パトロールにおいて発見された危険個所の修繕等を実施するための予算、2600万円が計上されました。
- 小学校の修学旅行キャンセル料を保護者負担にしないための予算措置として、28万8000円が計上されました。
- 市内中小企業の支援策として「新型コロナウイルス感染症対応設備導入補助事業」に係る補正予算4000万円が計上されました。同事業費は、事業者が感染症対策を行うための設備導入費や工事費等を補助するものであり、1事業者に対して上限200万円が補助されます。

1 皆様からの要望に誠実に応えます

2 教育・医療・福祉分野でのICT（情報通信技術）の活用を推進します

3 災害に強いまちづくりを推進します

4 地域の新たな魅力を創出します

5 通学路の安全対策を進めます

6 地域特性を活かした英語教育を推進します

7 ババ・ママが安心できる子育て環境を整備します

8 多様化社会に合った地域コミュニティの再生を目指します

ZAMA CITY FOR THE FUTURE
NAITO YUKIO POLICY
GOALS 16
～座間市の未来へ～ 内藤幸男16の目標

9 協働のまちづくりを推進します

10 空き家のデータ収集と有効活用を進めます

11 ふれあいと活力ある健康長寿社会づくりを推進します

12 歴史・文化を活用したシティプロモーションを提案します

13 座間駅前の活性化に力を入れます

14 障がい者が自立できる支援策を推進します

15 国内友好交流都市との連携強化を目指します

16 目標実現のためあらゆる発言機会を活かします

皆さまの **身近な議員** として、**地域の要望に誠実**に応え、**地域に恩返し**をしていきます！

プロフィール
生まれ：昭和58年1月22日
出身校：産業能率大学経営学部卒（地域環境論：まちづくりゼミ）
職歴：前々職〉IT系ベンチャー企業コンサルティング営業管理職 / 前職〉(株)タウンニュース社記者
その他：座間市消防団団員（第1分団第1部）（一社）座間青年会議所（2021年度副理事長）
全国若手市議会議員の会神奈川ブロック代表
財政研究会地方議員連盟発起人
＜今期の議員役職＞
都市環境常任委員会委員長
ICT推進検討委員会委員長
高座清掃施設組合議会議員

後援会へのご加入も随時募集しております。ご要望なども気軽にご相談ください。
お電話090・6107・3467もしくはメールzama@naito-yukio.comにてご連絡ください。